

平成 22 年 10 月 7 日

都内私立中学校高等学校  
学 校 長  
国語科担当教諭 殿  
関 係 教 職 員

一般財団法人 東京私立中学高等学校協会  
会 長 近藤 彰郎  
東京私学教育研究所長 清水 哲雄  
文系教科研究会委員長 河田昌一郎  
(共催：財団法人 東京都私学財団)

## 文系教科研究会（国語）「講演会」のご案内

### 環<sup>たまき</sup>のまわるが如く<sup>ごと</sup> —近世から近代日本の「苦・楽」言説と表象—

清秋の候、先生方におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成 22 年度文系教科研究会(国語)「講演会」のご案内を致します。

今回は、講師に日本文学研究者のロバート・キャンベル先生をお迎えし、「環のまわるが如く—近世から近代日本の「苦・楽」言説と表象—」との演題にて講演会を開催致します。

研究やメディアへの出演等で、大変お忙しい中、今回ご講演いただけることとなりました。きっと、先生方にとって実り多き研修会になることと存じます。

校務多忙の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、奮って参加下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 平成 22 年 11 月 25 日 (木) 午後 5 時 30 分～7 時 30 分
2. 会 場 アルカディア市ヶ谷 (私学会館)  
千代 田区九段北 4-2-25 TEL:03-3261-9921 (代表)
3. 演 題 環のまわるが如く—近世から近代日本の「苦・楽」言説と表象—
4. 講 師 東京大学大学院総合文化研究科教授 (日本文学担当)  
ロバート・キャンベル 先生

【プロフィール】1957 年、ニューヨーク市生まれ、ハーバード大学大学院東アジア言語文化学科博士課程修了。文学博士。現在、東京大学大学院総合文化研究科教授 (日本文学担当)。主な編著に『読むことの力—東大駒場連続講義』(講談社)、『海外見聞集』(岩波書店)、『J ブンガク』(東京大学出版会) など。NHK 総合では「あさイチ」特選! エンタの書籍ナビゲーター、NHK 教育では「J ブンガク」MC、また日本テレビ系の朝番組「スッキリ!!」ではレギュラー・コメンテーターをつとめる。

5. 募集人員 60名 (定員になり次第締めきります)

6. 参加費 無料

※当協会加盟校の拠出金、および財団法人東京都私学財団からの助成金によって運営されております。

7. 運営委員 大高 知児 (中央大学附属中学校・高等学校)

8. 申込方法 11月18日(木)までに、Web、FAX、又は郵送にてお申込み下さい。

〒102-0073 千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 4階

東京私学教育研究所 文系教科研究会(国語) 担当:毛利、松田

TEL 03 (3263) 0544 FAX 03 (3263) 0560

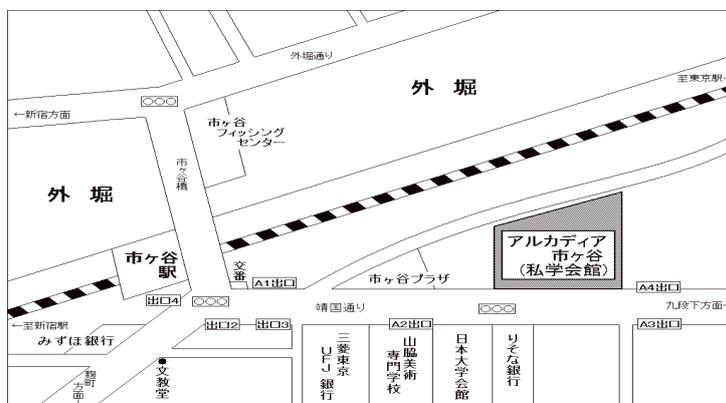
※ホームページを開設いたしました。

Webでのお申込みが可能です。是非ご利用下さい。

URL <http://k.tokyoshigaku.com>

## 9. 会場案内

- ・JR 中央線 各駅停車
  - ・東京メトロ有楽町線
  - ・東京メトロ南北線
  - ・都営地下鉄新宿線
- 「市ヶ谷駅」下車  
徒歩2分



### ◆講演者からのメッセージ

「楽あれば苦あり」という格言の通り、日本には快樂(安楽)と苦難を循環するものとして捉える思考がある。苦難のなかにも小さな「楽しみ」を見だし、自らを勇気づける独特の知恵をつちかう一方、いいことは続かないから、明日訪れるかもしれない苦勞への先回りの準備に追われるという文化的な特質をもつように思われる。人生経験を「苦」と「楽」の連環として捉える言説は、江戸から明治期の文芸と思想文献には数多く見られるが、本講演では、代表的な著作を紹介しながら、歴史文化に照らす形で「社会に生きるとはどういうことか」、という問いについて考えてみようと思っている。

## 文系教科研究会(国語)「講演会」参加申込書

—平成22年11月25日(月)実施—

学校名	氏名

東京私学教育研究所 御中

平成22年 月 日

学校長 \_\_\_\_\_ (印)

※FAX受理、受付完了等の連絡は省略致します。(本申込書をお送りいただいた時点で受付完了です)  
申込確認が必要な方は、下記にご記入下さい。後日、申込書受理書をFAXでお送りします

・希望する

理由等	FAX番号:
-----	--------